

## 令和2年度事業報告総括

今年度、唐津市社会福祉協議会は、「第3期組織・経営基盤強化計画」に基づき、さらなる経営基盤の強化と住民から信頼される社協を目指し各事業を実施しました。

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、緊急かつ一時的に生計を維持することが困難となった方々の相談、貸付業務が増える一方、一部の事業では規模の縮小や中止を余儀なくされましたが、そのような中においても、地域住民のつながりを切らさないために、市民の皆さんと共に考え、事業内容の見直しや創意工夫しながら、福祉サービス・公益的な取り組みを実践しました。

### <社会福祉事業 法人事業拠点区分>

平成30年度に策定した「第3期唐津市社会福祉協議会組織・経営基盤強化計画」の計画の進捗と成果を確認しつつ、本会組織の強化を目指し、事業実施に取り組み、令和3年度から令和4年度の計画を本会の現状を踏まえ見直しを行いました。

また、直近の労働関係法令等の改正に伴い就業規則等関連する諸規程を整備し、併せて職場環境の改善を推進するとともに、会計監査人を選定し、会計監査人の監視・指導によりガバナンス及び財務規律の強化を図りました。

### <社会福祉事業 地域福祉事業拠点区分>

・新型コロナウイルス感染症対策により活動が制限され、事業内容によって規模縮小または中止を行いました。サロン活動など地域住民の交流がない中で、人とのつながりを保つため、地区ごとの研修会や各地域協議体で、見守り等安否確認の方法や生活支援の手段等を検討しました。

またコロナ対策による休業や離職等で生計維持が困難になった方からの貸付相談が1,700件以上寄せられ、緊急小口資金および生活再建のための総合支援資金貸付の対応を行い、またフードバンク事業として市内外の個人や事業者・団体から寄せられた食糧寄付を、相談者の状況に応じて提供し支援を行いました。

・本所、支所合わせて53か所の放課後児童クラブを受託運営し、昼間留守家庭の児童の主体的な遊びや生活が可能となるよう支援を行うとともに、児童館・児童センターにおいては、主催教室を開催し来館児童の受け入れ増加と能力向上に資するなど、児童の健全育成に努めました。

また、新型コロナウイルス感染症緊急対策として、育成環境改善対策事業を行い、マスク、消毒液、加湿器等を購入し、感染予防に努めました。

・生活自立支援センターでは、市の委託を受けて関係機関・団体等と連携しながら自立相談支援事業、家計改善支援事業を実施し、生活困窮者の経済的及び社会的な自立を支援しました。

・ボランティア推進事業は、さまざまなボランティアの要請に対応するため、ボランティア養成講座を行い、地域でボランティア活動を広げるためボランティアの育成に努めました。またボランティアをしたい人と、して欲しい人を繋ぐコーディネートを行いました。

さらに、学校の福祉体験講座を実施し、福祉教育の理解・推進を図りました。また、福祉サービスとして車椅子等の福祉用具の貸出を行いました。

#### <社会福祉事業 介護保険等事業拠点区分>

介護保険サービスでは、地域密着型介護サービスのプラットフォーム、グループホームおうか・きりご、ひぜん荘、ふれあい館、なないろの地域に根ざした施設運営を行うとともに、居宅介護支援、訪問介護等の居宅介護サービスの実施により高齢者の在宅介護を推進しました。

介護職員の正職員化他の処遇改善や職場環境改善にも取り組みました。併せて新型コロナウイルスの感染予防を心掛け、利用者様が安心できる持続可能な介護事業を推進しました。

また、一般の高齢者を対象とした健康づくり事業等を受託し、高齢者福祉・介護予防の推進に努めました。

#### <社会福祉事業 保育園事業拠点区分>

健全で持続的な保育園運営を行うため、保育士等の確保を図り入所児童の受け入れに努めるとともに、積極的に地域行事に参加し、地域との交流・連携を図りました。

保育園の建設では、老朽化した佐志保育園の園舎改築工事を実施しました。佐志保育園新園舎建設に伴い定員を60名から80名へ増員するとともに、青葉保育園の定員については現状を勘案し、定員改定を行いました。

また、新型コロナウイルス感染症緊急対策として、保育環境改善対策事業を行い、マスク、消毒液、加湿器等を購入し、感染予防に努めました。

#### <公益事業 法人後見事業拠点区分>

認知症、精神障がい、知的障がいなど意思決定が困難な方の受け皿として平成30年度より事業を開始し、今年度延べ2名を受任し事業を行いました。

なお、各部署における事業報告の詳細は、次頁以降のとおりです。